

第1章 テーマ設定の理由、目的、方法

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-01-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00064692

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



第1部

幼児期における社会情動的スキルの発達 (2年次)

—「探究心」「自己主張」「自己抑制」の姿を追って—

研究テーマ

幼児期における社会情動的スキルの発達（2年次）

－「探究心」「自己主張」「自己抑制」の姿を追って－

第1章 研究の概要

草場勇介 米林加織

1. テーマ設定の理由

本園では、昨年度より研究テーマを「幼児期の教育における社会情動的スキルの発達」とし、研究に取り組んできた。「社会情動的スキル」とは、OECD（経済協力開発機構）において、目標の達成（忍耐力・自己抑制・目標への情熱）、他者との協働（社交性・敬意・思いやり）、感情のコントロール（自尊心・楽観性・自信）の3つに分類されており、「非認知能力」「非認知的スキル」とも呼ばれるものである。また、（平成30年に改定された）幼稚園教育要領に示されている「幼児期に育みたい資質・能力」における「学びに向かう力・人間性等」とは「心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとすること」である。本園では昨年度「社会情動的スキル」の具体的内容のカテゴリを「自分の心の状態」「他者との関わり方」「取り組む時の心の姿勢」の3つとしたが、これらの含む要素（「自信」「自己調整」「好奇心」など）は「心情・意欲・態度」に含まれているものが多い（本園研究紀要第66集参照）。つまり、「社会情動的スキル」は幼児教育において育んでいきたい資質・能力のひとつであると言える。

文部科学省は『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）』において、人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続的」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつあること、このように急激に変化する時代の中を生きていく上で必要な資質・能力を育成することが求められていることを述べている。本園では昨年度の研究において「社会情動的スキル」を“社会で生きていく際に有用な技能と心の変化に対応する姿勢”と独自に定義づけた。幼児期における「社会情動的スキル」の発達について考えていくことは、正に Society5.0 時代の社会を生きる子供たちにとって必要な技能や心の在り方について考えていくことであり、更には小学校以上の教育へとつながる基礎となるものであると考える。

サブテーマである－「探究心」「自己主張」「自己抑制」の姿を追って－は、昨年度の研究の課題から設定した。昨年度の研究では、「社会情動的スキル」が内包する要素が多岐に渡ることから、幼稚園での遊びの充実や人間関係の構築に関わりが深いと考えられる、「探究心」「自己主張」「自己抑制」の3つの視点からの考察を行った。研究の中で、「探究心」においては「好奇心・向上心」、「自己主張」においては「安心・信頼関係」、「自己抑制」においては「相手意識」といった要素が重要であるということが明らかになってきた。しかし、発達の様相を捉えていくためには、より

長いスパンで一人の幼児の発達の経緯を探っていくことが必要であると考えた。そこで、このサブテーマを設定することとした。

2. 研究の目的

- ・収集した事例から「探究心」「自己主張」「自己抑制」の3つの視点における幼児の社会情動的スキルの発達の様相を明らかにする

3. 研究の方法

- ・抽出児を設定し、事例を収集、考察する
- ・事例中のキーワードについて、K J法を参考に分類及び分析を行う